

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(第1部会)

区分	内容
テーマ・事業名	きらめきサポートプロジェクト 【事業費予算 1,230 千円】
事業目的・概要	地域コミュニティの活性化や福祉、防災、文化振興など、様々な地域課題の解決につながる取り組みを地域の団体と協働で実施し、「きらめく秋葉区」に向けたまちづくりを目指す。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>(1)アキハフジンロックフェスティバル [ドタミファソラシ堂] ・会議:9月7日(火)、12月10日(金) ・リハーサル:10月29日(金)秋葉区文化会館 ・オンラインで音楽ライブ、キッズヨガダンス、絵本読み聞かせ、秋葉区の紹介動画などを生配信:11月26日(金)15組参加、12月18日(土)17組参加、1月22日(土)8組参加、2月25日(金)11組参加 秋葉区文化会館 ・対面方式ライブ:3月8日(火)10組参加 金津コミュニティセンター</p> <p>(2)田家～秋葉湖周辺案内地図設置事業 [新津中央コミュニティ協議会] ・会議: 8月28日(土)、10月5日(火)、2月24日(木)、3月18日(金) ・案内地図設置:①妙本寺、泉の道(3 清水)周辺②水無提周辺③諏訪神社周辺の3か所(上部に地図、下部に矢印表示 600×900mm)</p> <p>(3)クマ・イノシシなどの大型獣から命を守る安心安全なまちづくり [あきは害獣対策プロジェクト] ・会議:9月24日(金)、11月8日(月)、1月27日(木) ・勉強会:「秋葉区民をクマ・イノシシから守るために」12月12日(日) 新津地区市民会館 参加者25名 ・広報活動:金津におけるイノシシの出現状況をテレビ放映、新聞報道 ・携帯用パンフレット作成配布: ①区内の小・中・幼稚園等17校7幼稚園2月24日(木)5,758部 ②小学校1校2月25日(金)190部 ・クマよけスプレー配付:金津、山の手、新関コミュニティ協議会 3月8日(火)</p>

	<p>(4)楽しみながら防災を学ぶ「イザ!カエルキャラバン!」を秋葉区で開催する [みそら野地区自主防災会] ・会議:9月5日(日)、9月15日(水)、11月7日(日)、12月11日(土) ・防災イベント:「イザ!カエルキャラバン!」 1月28日(日)荻川コミュニティセンター 参加者96名</p>
<p>事業の評価</p> <p>地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p>【個別事業】</p> <p>(1)アキハフジンロックフェスティバル [ドタミファソラシ堂] ・大切な子育てを楽しくやりたい。核家族化が当たり前になった社会の中で孤立化せず、大勢の人とつながっていくことは、育児の中で大切なこと。集まるのが難しくなってしまった社会の中から、今回の取り組みは興味深い。ママが元気なのは子供にとって一番。 ・朗読あり、散歩ありのオンライン。方向性は評価できる。 ・ZOOMでの参加、チラシ配布。なかなか結果に繋がらない。予算は具体的である。 ・子育て支援センター等を利用して参加者を募っており、地域性は評価できる。 ・対面ライブになれば参加者も増える。継続性は評価できる。 ・11月から毎月開催し、県外からの参加者ともつながりながら自宅での親子の時間を楽しむことに貢献していた。 ・秋葉朗読の会・高塚農園・パパママ銭湯といった地域の活動団体・企業とも連携し、秋葉区ならではの活動を展開していた。 ・オンラインによる事業展開は予算面で難があるが、視聴者である親子の喜び溢れる様子がテレビ画面に双方向的に表示され、瞬時にその状況に対応したパフォーマンスが可能となるものであり、子育て中の母親への連帯意識の醸成、支援意識の強化等、事業目的の達成には遜色はないと思われる。 ・オンライン実施について、参加者は設定等に煩雑な事前作業が必要となるが、それは支障とはなっていないことがうかがえる。 ・事業全体としては評価されるが、目的達成をより高めるためにはオンライン方式よりも対面による進行がベターである。</p> <p>(2)田家～秋葉湖周辺案内地図設置事業 [新津中央コミュニティ協議会] ・初めて秋葉山を訪れた人にとって分かりづらい場所だと思う。どこにどんなものがあり、ここを歩いていくとどこに出るのか、どこに繋がっているのかが分かるように分岐点案内地図を設置し、誰もが安心して安全に散策を楽しむことができるようになると思う。 ・秋葉山とその周辺の市民への認知度が向上し、秋葉区以外の人々が秋葉山</p>

を利用しやすくなり、遊歩道として歴史・文化を求めて散策などの活動をする人たちが増えることが期待される。

・今回は田家周辺であったが、また来期もきらサポに応募し、昨年実施したMTBコース、キャンプ場、秋葉湖周辺、その他に分岐点地図を設置し、魅力ある地域作りを目指してってもらいたい。

・案内地図が設置出来たらぜひ見ていただき、意見を聞きたい。

・秋葉区の宝である秋葉山をアピールし、安心して散策できることは大切なことと思う。今後はもっと深く入り込んで、山全体の案内等に力を入れていくよう、継続的に進めていけたら良いと思う。更にキャンプ場の充実も望む。

(3)クマ・イノシシなどの大型獣から命を守る安心安全なまちづくり

[あきは害獣対策プロジェクト]

・今、個人が出来る事といえば、大型獣に出会わないことに尽きると思う。今回の取り組みは大変大切なことで、近隣市町村との連携も大切かと思う。そうになると、秋葉区のみ対応は非常に難しく、行政の出動もお願いしていく必要を感じる。

・秋葉区山間の地域では大きな問題であると改めて感じた。あきは害獣プロジェクトの今後の展開に期待し、秋葉区役所も何か起こる前に補助をしていただきたい。

・勉強会は、秋葉区の内情、クマ・イノシシ等に遭遇した時の対処法、遭遇しないための対策など実りある内容であった。広報が足りなかったのか、危機感・興味が少ないのか、30名弱の出席であったが、伝わったと思う。

・このプロジェクトに関わることで、改めて身の危険が身近にあることを感じ、手遅れにならないように対策しなければと思い、この企画の必要性を感じた。

・開催された「勉強会」は、やはり多くの方々に参加していただきたいので定期開催ができればさらに良いと思った。

・当面する地域の課題解決に的確に対応した事業であり、地域間の連携の構築強化に繋がる良好な事業であった。

・子供達の登下校に於ける安心安全と、地域住民の猛獣対策の意識高揚を行った。

・関係する地域と行政が一体となつての事業推進であり、大きい効果が期待されている。

(4)楽しみながら防災を学ぶ「イザ!カエルキャラバン!」を秋葉区で開催する
[みそら野地区自主防災会]

・子どもの時から防災に関心を持ってほしいという思いは伝わったと思う。楽しく会場を巡っていた子どもたちの表情から、遊びやゲームの回数を重ねることで、自然と防災への関心が身に付いていたことがうかがえた。今回は参加人数を確保できたが、これからの課題は、どうアピールしていくのか、今回のような防災行事とするのか、イベントの中に繰り込んで実施するのか、選択方法は多いと思う。また、底辺を広げるためにも、小・中学生参加の学校行事にまで発展すれば良いと思う。参加賞は、防災に関係したグッズ（防災メガネ・水筒）やチョコレート味の非常食（ようかん等）と、今までの常識にとらわれない品物であった点は良かったと思う。

・採択団体が主体的に取り組んでいた。

・難しい状況であったが、実際に開催したことは評価できる。

・防災に関する自治会、コミ協の意識改革により、防災意識の高揚が認められた。

・家族内における防災の見直しと災害時における連絡体制の確立。

・防災に強い秋葉区の基礎作りの一助を担った。

・次年度も継続して訓練を望む声があり、好評で、地域の期待に応えた有意義な活動であった。

【全体を通して】

・第1部会の全員がそれぞれの開催日を共有し参加してもらえたら良かった。

・きらめきサポートプロジェクトでの4事業とも夫々個々の事業としてはそれなりの成果はあったと思われるが、事業の成果を未来にどう生かし秋葉区の活性化に繋げていけるのか（SDGs）。単発事業にならないような事業形態を構築する必要があると思う、例えば、自然環境豊かな秋葉丘陵を基軸にした「秋葉湖周辺案内地図設置事業」や、応募の有ったマウンテンバイクコースの整備や、近日ニュースになっている新津工業高校と民間企業のコラボによる「東屋」の新設など、秋葉丘陵整備をベースに自治協議会&秋葉区&民間事業者等が一体となった組織の構築が望まれる。秋葉丘陵は区民のみならず距離的にも交通のアクセスからも新潟市民全体の「憩いの場」としての要素は多めで、周辺地域からの流入人口による商店街の繁栄にも大きく関与する。新年度の事業に期待。

・各事業とも成果はあったと認められるが、継続性が求められる。

・地域課題解決のために、このプロジェクトは非常に良い企画だと感じる。動き出したけれどお金の面で動けないことを自治協議会がフォローする。また、自治協議会も絡む事で相乗効果もあると感じた。更になかなか関わりのない地域や団体の魅力や課題に自治協議会として気づきもあると思う。

・事業実施期間を長くとれるよう、工夫が必要であった。

	<ul style="list-style-type: none">・事業の実施にあたり、区役所の関わりがもっとあってもよかった。・担当以外の事業の進行状況を自治協委員で共有する機会の必要性を感じた。また、自治協との連携の内容については、参加者と事務局、担当者間での理解の仕方が異なっていたため、あらかじめどのような意味で連携するのかについて確認しておくことでより円滑に活動を進めることができる。・担当者からの会議報告が提出されることで会場利用の減免等ができるようになるといった手続きの共有はあらかじめしておく必要がある。・きらめきサポートプロジェクト全体としては、とても良い企画だと思うので、実施した各プロジェクトの報告や広報を紙面記事のみならず、映像記録として残し、SNSなどで配信し、より多くの方々により楽しく見てもらうことができたら盛り上がっていくのではないかと思う。
--	---

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(第2部会)

区分	内容
テーマ・事業名	公共交通利用促進 【事業費予算 300 千円】
事業目的・概要	<p>【事業目的】 「秋葉区生活交通改善プラン」に基づき、利用しやすい公共交通を検討するとともに、区内の公共交通情報を発信し利用促進を図る。</p> <p>【概要】 地域の実情に応じた適切な移動手段を検討するため、地域ごとに公共交通の利用状況や移動ニーズ等を調査する。 また、区バスの利用促進を図るため、時刻表等の情報を掲載したガイド等を作成・配布する。</p>
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>他地区の改善事例や失敗事例等の勉強を行って地域で何ができるかの議論を行った。その結果、公共交通を望む満日地区をモデルに移動手段を検討する体制を立ち上げ、コミュニティ協議会、町内会、民生委員・児童委員、社会福祉協議会と協議すると共に、アンケートにより地域の実態把握を行った。</p> <p>4月 「秋葉区公共交通ガイド」作成配布 6月 公共交通を望んでいる満日地区をモデルに議論 7月 江南区大淵地域買い物支援視察 満日コミュニティ協議会との協議 8月 公共交通の「育て方」講演会の開催 9月 満日地区、民生委員と他地区での生活交通支援事例を基に協議 4月発行のガイド、6月・10月改正を配信 10月 満日地区と協議し全戸アンケート実施を決議 11月 満日地区の生活交通支援検討会体制を議論 12月 「新たな移動手段の検討会」でアンケート作成 1月 全戸アンケート実施 2月 アンケートを回収し分析(回収率 77%) 3月 アンケート結果を基に今後の進め方を議論</p>

事業の評価

地域課題の区自治
協議会提案事業
事業評価抽出方法
や企画立案の評価
事業の公益性・実
効性・効率性の評
価など

【評価】

- コロナ禍だったが、地域と向き合って議論が出来たことは有意義だった。
- コミュニティ協議会、町内会、民生・児童委員、秋葉区自治協議会、秋葉区協議会第2部協議会の構成メンバーで「新たな移動手段の検討会」が発足できた。
- 全戸アンケートが実施でき地域の実態把握ができた。
- 当初は諦めムードの地域だったが、地域の人達と話し合いを重ねることで、地域、民生委員、社会福祉協議会、自治協議会の協働での生活交通実現の気運が高まった。
- 「秋葉区公共交通ガイド」を計画どおり作成、ダイヤ改正の配信を実施し、区バス等の利用促進に繋げた。

【課題】

- 買い物、通院、通学、通勤、地域のお茶の間など、どの目的の生活交通支援をモデルにするかを検討すると共に、その移動に使用する車両等の確保と体制の構築が必要。
- アンケートの結果、買い物や通院への要望が多くあり、既存の路線バス、住民バス、目的バスのルート、バス停、駅との接続など、改善検討が必要。

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(第3部会)

区分	内容
テーマ・事業名	Akiha おとな大学 【事業費予算 612 千円】
事業目的・概要	秋葉区の特徴や史跡・旧跡、魅力ある歴史を学んでもらうことで地域への愛着や興味関心をさらに高めるとともに、学びを次世代に引き継ぐ、未来につながる主体的な学びの機会とする。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ●対象者:秋葉区在住の成人(20歳以上) ●募集定員:15名 ●申込者数:22名申込(23名申込のところ1名キャンセル) ●開催日程 <ul style="list-style-type: none"> 【第1回】1月25日(火曜) 9:00~12:30 秋葉硝子細工づくり体験と新津工業高等学校見学 【第2回】2月5日(土曜) 10:30~11:30 JR 東日本 新津運輸区 SL 保管庫見学
事業の評価 (地域課題の区自治協議会提案事業事業評価抽出方法や企画立案の評価事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まん延防止措置により事業延期となったが、企画は秋葉区の魅力が詰まった良いものであり、応募者が予想以上に多かったことから、区民にとって興味・関心の持てる内容であったことが確認できた。 ●東京オリンピックの7人制ラグビー日本代表に秋葉区出身の原選手が選出されたことを受け、応援のぼり旗を作成・設置してエールを送った。 <hr/> <p>【今後への提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●秋葉区の様々な魅力を知る「きっかけ」となるようなはじめての一步の事業実施から始め、次のステップとして深化を図っていけるような企画が必要。 ●コロナ禍での実施を考えたときに、屋外での開催も視野に入れるなどして、開催形式を検討しておく必要がある。 <hr/> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●延期した事業について、状況を見ながら実施時期を再検討し、実施する必要があるが、開催の決定については十分な熟議が必要。 ●コロナ禍でも実施できる内容や代替案、オンライン開催など開催形式の検討が必要。

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会（広報部会）

区分	内容
テーマ・事業名	コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算 828 千円】
事業目的・概要	秋葉区ならではの取り組みとして、秋葉区のコミュニティFMを活用し、自治協議会の活動や自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」のPRを行う。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>■FM版「あきはくはつものがたり」 毎月第2水曜日の12時00分から30分番組の放送 (再放送は同じ週の土曜日9時から)</p> <p>■スポットCMの放送 8~3月:合計放送本数250本</p> <p>■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR2号/年(運営事業費) 第27号:R3.9.5発行、第29号:R4.3.20発行 各号約22,000部発行し、新聞折込および個別配送のほか、公共施設等に配置</p>
事業の評価 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin-left: 10px;"> 地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など </div>	<p>■コミュニティFMの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治協の活動紹介としては有効だと思う反面、決まった時間にスイッチを入れるという制約の縛りは強いと思った。再放送はあるにしても。 ・自治協で起こっていること、各部会が実施している内容等が秋葉区内の幅広い方々の耳に届くことは区民の興味・関心を高めることに繋がった。 ・秋葉区で起こっている様々なことを、秋葉区内で収めるのはもったいないので、区外や市外まで届くような広報もあっても良いかなと思った。 ・コミュニティFMを使っただけの自治協議会活動の情報発信は今後も必要だと思うが、どれだけの人に聞いてもらっているのか把握できないことが課題だと思う。 ・日常生活に密着し、身近な情報の発信が求められる「コミュニティFM」の活用は、とにかく地域の方々に分かりやすく、見えにくいとされる人づくり、まちづくり等の事業推進のための広報媒体として、大きな効果が期待出来る。 ・ラジオ版「あきはくはつものがたり」の紹介を、年間を通じて自治協議会委員が所属部会メンバーとして担い、番組担当パーソナリティーとの対話を通してそれぞれの部会が提案し進めている事業について発信していくことは、情報の受け手である区民の関心を引き寄せ、又、発信者である委員にとっても、事業の現況や効果等を再点検出来る等、有効な取り組みである。 ・電波聴取エリアが狭い事や、放送の曜日、放送時間等制約が多いが、聴取

率は勿論のこと、年齢層等聴取者の属性もはっきりしない中で、提供番組に対するアンケート調査の実施や視聴者からの意見投稿を求め、番組構成に反映させる事も必要である。

■かわら版「あきはくはつものがたり」の発行

・形に残る、読み返しができるというのは強力。写真やマンガで、文章だけではスルーされることを防いでいると思う。

・4コマ漫画を取り入れ、文字だけでなく読者の興味を唆る紙面で工夫されていてよかった。

・近い将来、各プロジェクト等を紙面ではなく映像媒体で広報するのは有りかと思う。文字や写真だけでは伝えられない魅力や伝えやすさがあると思うので、検討していけたらと思う。

・コロナ禍の中、予定通り「あきはくはつものがたり」が発行できてよかった。

・年3回の発行のうち1回は区だよりの一面を使うことで区民に確実に読んでもらえていると思う。

・様々な情報のデジタル化が進められているが、高齢者にとっては情報機器を通さず即視が可能な紙媒体である広報紙の有意性は高い。

・コミュニティ FM 活用との併用によるダブル効果は大きい。継続していくべきと考える。

・発行回数が少ないのでタイミングの良い記事掲載が難しい。

・近年の新聞離れから、広報紙受領不可世帯の減少対策の検討が必要である。

・新潟薬科大学の取り組みを紹介し、地域の方々に少しでも大学を身近に感じていただく工夫を施した。

■全体を通して

・目から入る情報は強いと思う。ポスターもその一つだが、現在はやはり映像かと思う。今年度の4コママンガは、一貫してもち麦にした。1回より2回とダメ押しで産業推進を図れば良いと思う。

・秋葉区の魅力発信をするためには、現在は映像での発信が一番効果的であると思う。

・自治協議会の活動の情報発信は SNS などの方法があるが、紙媒体での「あきはくはつものがたり」は高齢の世代にとって自治協議会を身近に感じてもらえていると思う。

・より良い広報活動を進めるため、広報部会研修を提案する。研修は、放送（アナウンスを中心とした）部門、広報（紙面作成を中心とした）部門の専門家による講義、実技等で構成する。

・できるだけホットな話題を迅速に地域の方々に届けることを意識しながら、コミュニティFMやかかわら版を通じた表現や演出を行ったことは評価できる。しかし、自治協が中心となって実施する様々なイベント、取り組みがまだまだ浸透していないことや一部の方々にしか知られていないことを実感することがある。FM での出演回数や放送時間の確保、新潟日報をはじめとするマスコミを上手に活用することも必要なのではと感じた。

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(秋葉区民幸福度調査部会)

区分	内容
テーマ・事業名	秋葉区民幸福度調査(秋葉区の暮らしやすさに関する意識調査) 【事業費予算 800 千円】
事業目的・概要	(1) 区民自らが「秋葉区に暮らす幸せ」とは何かを考え、地域の資源と強みを再評価すると共に、地域の魅力を内外に発信するための材料を得る。 (2) 地域の課題を明らかにし、新潟市政および秋葉区政に反映させると共に、秋葉区自治協議会の事業立案の参考にする。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	(1) 調査票の発送による調査 ●期間 令和3年8月10日発送～8月末締切 ●対象者 令和3年4月時点で秋葉区在住15才以上の中から無作為抽出された2,000人 ●回答数 892件(うちWEBフォームでの回答115件) ●回答率 44.6% (2) WEBフォームによる一般募集 ●期間 令和3年9月6日～10月8日 ●回答数 143件 (3) 中学生対象調査(WEBフォームでの回答) ●期間 令和3年9月7日～10月8日 ●対象者 令和3年4月時点で秋葉区内の中学校に通う中学生1,966人 ●回答数 478件 ●回答率 24.3%
事業の評価 地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など	【評価】 この調査は、自治協議会メンバーの献身的な努力に加え、秋葉区役所および大正大学との協働作業や、NPO 法人まちづくり学校による的確なアドバイスの結果として実現することができました。秋葉区はそこに住む人々にとってどのような存在なのか?そんな素朴な疑問から始まったプロジェクトでしたが、これを通して区民の意識という目に見えないものを様々な角度から可視化することができました。これによって得られたデータは地域の未来を描く上で大変貴重なものであり、行政への提言や協議会内の議論の参考とするだけでなく、自らが行動していくための礎として、秋葉区ならではのまちづくりのために活用していきたいと思います。また、この成果を共有することにより、秋葉区を愛する幅広い個人・団体の皆様の活動の中に活かしていただきたいと思います。(部会長 金子 洋二)

秋葉区自治協議会の提案事業であるこのアンケート調査は、貴重な資料であると改めて思います。この部会活動で、調査項目の組立てを学び、また分析の積み重ねを段階ごとに見ることができ、このプロセスで多くを学びました。調査結果では特に、環境に配慮した生活をしている人の割合が 88%に上っている。私たち秋葉区民が、この環境意識の高さを自覚することで、これからのまちづくりに生かせるのではないかと考えます。(副部会長 長谷川 啓子)

このような大規模調査に企画段階から関与し、調査報告出来た事は貴重な体験であった。調査項目「住み良い」「住み続けたい」「愛着がある」の好結果により、8割を超える人達が幸せを感じているという『幸福指標』の高さに繋がり、更に特筆すべきは、県外出身者の6割が秋葉区に愛着を持っている事が示された事である。私たちの「秋葉区」も満更捨てたものではなく、この大切な意識基盤を活かして行く事にもっと力を注がなければならない。(荒井 武雄)

「秋葉区民幸福度調査」は私の知る限りでは初めての調査であり、報告書にもあるとおり年代別、地域別など様々な条件に於いて分析されており大変素晴らしい報告書だと思います。これは、金子会長の功績だと思います。この調査の成果を行政は多いに活用して問題点を点検し、自助・共助・公助のうち公助で区民がより暮らしやすい地域になる様な施策に役立てて欲しいです。(伊藤 治好)

秋葉区民の幸福度調査に強い関心を持ってメンバーにエントリーしました。「幸せとは何か」を自分に問うことに始まり、この調査項目に議論を重ね、アンケート用紙の配布作業をメンバーみんなで黙々とやり終えた時は何とも言えない充実した気持ちになりました。調査の分析結果では「地域の助け合いについてやや心配」に注目しています。今ある立場でこの調査結果を今後どのように活かしていけばよいかを考えていきたいと思います。(大貫 弘美)

幸福度調査は多々実施されていますが、身近に感じられませんでした。この調査を秋葉区で実施したことで身近に感じ、区の実態が把握できたことは大変有意義でした。初回の実施のため傾向は今後の調査に任せるにし、今回性別、年代別、住居別、出生別にみたことでデータの比較ができました。今後、この幸福度調査データが行政や希望者に公開・有効活用され、区民の「幸せ」の尺度として幸福度アップに繋がる事を期待します。(坂口 憲夫)

生活の利便性、自分らしい生き方の項目結果には予想外の数値。「日常生活

用品の買い物に不便していない」や「交通手段に不便がない」など、当初の予想に反した集計結果に驚きでした。「自然豊かである」「犯罪が少ない」「災害が少ない」など相対的に幸福で住みやすい調査結果に表れた。ちなみに未回収の意見が気になるところです。(保科 代志夫)

調査結果からは、区民の「安心・安全な居住環境」が確保されていることが明らかとなった。一方、就業環境の整備が不十分であること、日常の買い物への不安、子育てに関する情報提供・取得の課題が明らかとなった。また、青年期は他世代に比して地域への愛着が低く、地域とのつながりが希薄であると予測される。今後は、次世代を育成するという観点から地域課題をともに未来から考え、対話し、解決していくことが重要であると考えます。(渡邊 彩)

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(秋葉区ひな・お宝巡り部会)

区分	内容
テーマ・事業名	秋葉区ひな・お宝巡り 【事業費予算 800 千円】
事業目的・概要	<p>【事業目的】</p> <p>昨年度まで小須戸コミ協と中央コミ協が協力して実施した「雛町屋めぐり、新津お宝めぐり」を秋葉区全域に広げることで、各コミ協、商店街の活性化を図るとともに、区内はもとより区外からの人の流れを生み出す。秋葉区の新春行事として育てたい。</p> <p>【概要】</p> <p>小須戸コミ協と中央コミ協だけではなく、区全体が関わることができる祭りとなるよう、区民誰も気軽に参加できるような取り組みを検討する。</p>
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>8月 自治協議会において、秋葉区全域で行うことを決議</p> <p>9月 1号委員全員と希望委員、計 16 名による横断的な特別部会として「秋葉区ひな・お宝巡り」部会を立ち上げ以降、8回部会を開催</p> <p>10月 秋葉区全 11 コミ協が共催として係ること、多くの区民が気軽に参加できるように「つるし飾り」の制作協力を呼び掛けることを決定</p> <p>11月 「つるし飾り」制作説明会・講習会を、各コミ協、地域の茶の間等、 ~12月 地域主催で開催</p> <p>1月 区内 150 の団体から約 350 個の「つるし飾り」が集まる 会期を2月1日から3月6日までとしたチラシ・ポスターを作成後、「まん延防止等重点措置」により、2月に行う予定だった広報物の自治会・町内会回覧を延期</p> <p>2月 「まん延防止等重点措置」の期間延長に伴い、当事業の会期延長を決定</p> <p>3月 3月7日から全会場で展示 当初のポスターに会期延長のシールを貼るとともに、新たに会期延長用のチラシを作成し、当初のチラシと一緒に回覧</p>

	<p>■つるし飾りの展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新津地域交流センター 50 団体 75 基 ・荻川コミュニティセンター 10 団体 20 基 ・新関コミュニティセンター 9 団体 30 基 ・小合地区コミュニティセンター 4 団体 15 基 ・金津地区コミュニティセンター 14 団体 19 基 ・小須戸まちづくりセンター 62 団体 155 基 ・その他(阿賀浦コミュニティ協議会、新潟薬科大学) <p>■ひな人形・お宝等の展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小須戸温泉健康センター 花の湯館 ・秋葉区文化会館 ・新津美術館 ・秋葉区役所 ・荻川コミュニティセンター ・新関コミュニティセンター ・新光商店街、0番線商店街、堀出神社 ・小須戸本町通り商店街
<p>事業の評価</p> <p>地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p>【 評 価 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全 11 コミ協が共催となることで区全域に事業が広がった。 ●新潟薬科大学での取り組みも含め、多くの人が同じ目的に向かったことで、地域の絆をより強くし、地域活性化に大きく貢献した。 ●秋葉区ひな・お宝巡り部会の積極的な部会活動で、部会員同士のチームワークや、部会員と事務局との連携向上が図られ、楽しく活動ができた。 ●コロナ禍で外出ができない中、「つるし飾り」の制作は、やりがいの創出、指の運動、認知症予防にも効果があると地域の茶の間等でも喜ばれた。 ●「まん延防止等重点措置」で、当初の開催期間ほとんどの会場が閉館だったが、会期を延長し、報道にも数多く取り上げられたこともあり、多くの人たちが各会場に訪れ、感動していただけた。 ●秋葉区全域の事業として特色あるまちづくりと交流人口拡大に期待できる。 ●手間や時間がかかることに地域住民が係ることこそ、地域づくりの醍醐味であると実感できた。 <p>【課題・今後への提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「お宝巡り」「商店街の活性化」までには至らなかったことや、秋葉区以外の各地でも様々な雛祭りを開催していることもあるので、今後、地域の行事を「お宝」として同時開催するなど、秋葉区らしい特色ある「ひな・お宝巡り」の内容を検討していく必要がある。

	<ul style="list-style-type: none">●今回は、コロナ禍で自粛しすぎた感があるので、次回は、その場で参加できる企画や、車以外では行きづらい会場へのツアー企画など、集客のために検討していきたい。●9月からのスタートで時間が足りなかったので、「つるし飾り」資材の検討や、新たな企画の検討のためにも、早目に取り掛かりたい。●PDCA サイクルを回し、より良い事業とするため、次年度は来場者のアンケートを取り、客観的に貢献度を把握し反映していきたい。
--	--